

ペンギンレポート



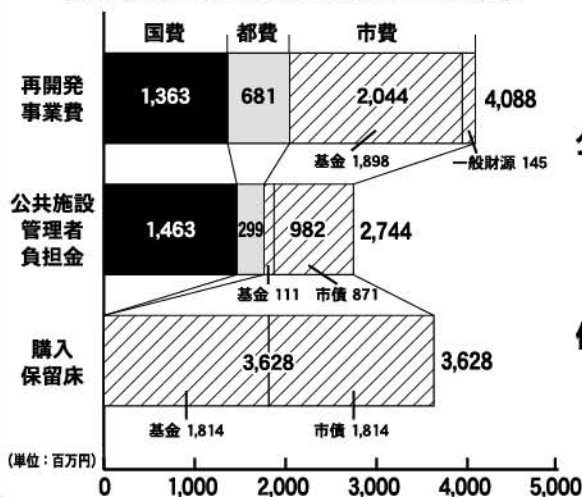
発行所
市民フォーラム
〒183-8703
府中市宮西町2-24

平成25年度予算が成立

平成25年第一回定例会が28日間の会期を終え、3月21日の最終日に平成25年度予算が可決、成立しました。予算総額は高野新体制として組んだ平成24年度6月補正予算と比較して約29億円増の927億円と、過去最大規模となりました。要因の一つである府中駅南口再開発事業ですが、再開発事業補助金と公共施設管理者負担金の市費合計30億円（国と都が38億円）と保留床購入費36億円、合わせて66億円となりました。

【府中駅南口再開発事業】 この夏には東京都より権利変換計画の認可を取得し、平成25年内に既存建物の取り壊しに着手、平成28年度の竣工をめざしています。また、保留床の5・6階の市民活動スペースについては、3月に市民活動推進協議会が市長へ活用方針の報告書を提出、平成25年9月には計画が策定される予定です。

府中駅南口再開発事業（平成25年度）



市街地再開発事業

都市再開発法に基づき、市街地内の老朽木造建築物が密集している地区において、敷地を統合、不燃化された共同建築物や公共施設を整備することにより、都市機能の高度化を図ります。

公共施設管理者負担金

都市再開発法により、道路や公園等を整備する場合には、公共施設の管理者に代わり組合が施工することになっていますが、費用については将来管理者が負担します。（交通広場や地下駐車場、ペDESTリアンデッキ、伊勢丹北側道路）

保留床

市街地再開発事業において、ビルの高層化に伴い地権者の保有する権利以外の床を保留床と呼び、これを処分し事業費に充てます。（府中市購入保留床：地下1階の駐輪場、地下3階の音楽練習室、5・6階の市民活動スペース）

市民墓地に樹林式墓地

平成27年3月以降に募集開始となる市民墓地ですが、樹林式墓地が新たに追加されました。樹林式墓地は、樹林の下にマンホール式の共同埋蔵施設を設け、その中に遺骨を埋蔵します。死後は安らかに自然に還りたいという希望に応えたものです。都立小平霊園では、樹林式墓地を募集したところ高倍率となりました。



府中医王病院の耐震改修を助成

市内の都指定二次救急医療機関で東京都の耐震化工事が補助される場合に限り、自己負担の半分を府中市で補助することになりました。今回、助成を受ける府中医王病院では、これにより地域医療、高齢者医療の充実を図る計画。今後は、全98ベッド中58ベッドを療養病床にする予定です。

小・中学校教員の公募

府中市では、昨年からは、市内小中学校の主任・主幹クラスの教員を公募しています。小論文、面接の上、採用を決定、市内の小・中学校に配属されます。近隣他市に先駆けての実施で、平成25年度は小学校の主任・主幹6名と中学校の主任2名を採用。身分はこれまで同様ですが、将来の府中の教育を担える人材が採用できたそうです。



山上みのる

府中市議会議員 会派：市民フォーラム／民主党東京都府中市支部政策委員

事務所所在地 〒183-0056
東京都府中市寿町3-9-18-102
TEL・FAX 042-366-3543

E-mail yamagami_229@nifty.com
URL http://yamagami.a.la9.jp/
郵便振替 00160-8-607854（山上みのる後援会）

ご意見ご要望をお寄せ下さい。ご支援も宜しくお願ひします。

児童虐待、いじめ、自殺、引きこもり、不登校、ニートなど、子どもや若者に関する多くの問題が発生、深刻の度合いを増していますが、解決に向けた取り組みの効果があがりません。原因に、「縦割り」による関係機関の連携不足があげられます。新潟県の三条市などの自治体では、関係機関・関係者の連携を補うためのツールとして「子育てサポートファイル」が活用されています。

Q 三条市の「子育てサポートファイル」とは

- ① ⇒ 目的は、関係機関が連携し適切な支援につなげること。具体的には、出生届を出したすべての家庭に配布し、子どもに関わる情報を保護者が記録し、一括管理する。相談や支援が必要なときに関係機関は、ファイルにより発達の経過やこれまでの支援内容、さらに現状の把握を行う。



Q 「子育てサポートファイル」の活用について、見解を

- ① 子ども家庭部長 ⇒ 保護者自身による情報管理と情報提供は、関係機関の連携に有効。さらに、保護者は成長記録に留まらず、保護者自身の子育ての悩みや不安を記録できるため、早期の支援が可能。
- ② 教育部長 ⇒ きめ細かな支援の充実を図り、連携体制を構築することができ、小・中学校入学などの節目に加え、進級時の引き継ぎや教員が子どものための情報共有、継続した支援のためにも幅広い活用が可能。
- ③ 福祉部長 ⇒ 支援機関が変わっても、今までの成長の過程や支援内容を一から説明する手間が省け、しかも正確に伝えることが可能。また、大災害時にも重要な手段である。



「子育てサポートファイル」活用について、連携が必要となる子育て、教育、福祉の3部門のいずれもが、サポートファイルの活用は有効であるとの認識です。今までの「縦割り」的な対応を補完し連携を進め、さらに情報共有を図るためにも、この「子育てサポートファイル」を子育て支援課が中心となり、教育委員会や障がい者支援課と連携を取りながら導入されますよう要望します。
(一般質問抜粋)

特別支援固定級の通学

一般質問②

特別支援学級の固定級は、府中市内の全小学校22校中の6校、中学校は11校中の3校に設置されています。従って、多くの特別支援学級の固定級に通う子どもたちは、通常級の学区外に通わざるを得ない状況です。特に中学校の3校、第一中学校、第二中学校、第四中学校は、いずれも甲州街道の北側に位置しているため、甲州街道南側に住む子どもたちの多くは、長時間の通学を強いられています。事故や事件に巻き込まれても不思議ではありません。安全面からも、このような環境が、なぜこれまで放置されてきたのでしょうか。

Q 市内小・中学校にある特別支援の固定級の生徒数推移を10年前、5年前、今年度

- ① ⇒ 小学校では、10年前81人 ⇒ 5年前127人 ⇒ 今年度128人
中学校では、10年前33人 ⇒ 5年前61人 ⇒ 今年度102人



Q 通常級の通学時間の基準、めやす。特別支援学級の固定級に通う生徒の通学時間の状況

- ① ⇒ 府中市における最長通学距離は、小学校が1.3km、中学校が2.3kmで、時間に換算しますと小学校が20分、中学校が35分。特別支援の固定級に通う生徒の通学時間は公共交通機関を利用する場合の所用時間は15分～50分で、待ち時間を入れるとこれ以上となる。

Q 長時間通学に対する通学支援について、他市の状況を

- ① ⇒ 多摩26市の状況を調べたところ、公共交通機関を利用しているのが、府中市を含め13市、車による送迎を行っている市が13市で、そのうちマイクロバス含めスクールバスを運用している市は、武蔵野市、三鷹市、小金井市、小平市、日野市、国分寺市、西東京市の7市。



1中、2中、4中の3校では、固定級が1校当たり4～5クラスと、すでに限界です。たとえば、3校の近隣に大規模マンションが建設されると、生徒数の増加に伴いプレハブで対応することにもなりかねません。このような状況を勘案しても、中学校においては、固定級を少なくとも1校から2校、甲州街道の南側に新設すべきです。教室の新設が叶わない場合には⇒独自にスクールバスやワゴンなど車による送迎を実施している市が13市と26市中、半数に上っています。また、小金井市では、ココバスのワゴンタイプを活用し、スクールバス3台を運行しています。子どもたちの安全のためにも、スクールバスなどの代替手段を講じるべきです。

障がいがあることで、本人だけでなく、保護者も人の何倍も努力しなければならない。そのような状況が今の世の中には多くあります。障がいがあるから仕方ないと多くの保護者があきらめてきたと思います。毎年、12月に行われる小・中学校の人権作文発表会では、いじめや障がい者等の人権問題について、子どもたちの書いた、感性豊かなすばらしい作文を聞くことができます。そこで思うのは、「人権教育を行う一方で、このような配慮に欠ける状況を続けてはいけぬ」ということです。大人が責任を持って、後ろ姿で示したいと思います。一日も早く、今の状況を改善していただきたいと強く要望します。

(一般質問抜粋)